
二人の恋

Asu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二人の恋

【Nコード】

N5197Y

【作者名】

A S U

【あらすじ】

新一と蘭。幼なじみ。

この関係が崩されるなんて。誰も思っていなかった。ある美少女の登場で、二人の仲は、引き裂かれていく。

初投稿です。読んでいて変なところがいっぱいあります。多分不定期な投稿になると思います。後、この設定はお互い両思いだけつき合っていないっていう感じです。

プロローグ（前書き）

めちやくちゃへンデコです（*、（ノ
それでもいい方はどうぞ！

ブローグ

「おはよ、新一。」

「はよ」

いつも通り待ち合わせをして学校に行く。

新一と蘭にはそれが当たり前。

この当たり前が崩れることになるとは、誰も思っていなかった。

他愛のない会話をしながら歩く。蘭にとっては、それが幸せだった。

園子「蘭！おはよっ！」

学校に着くと園子が走りながらこっちにくる。

蘭「おはよ！園子。」

新一「はよ。」

新一は眠たそうに欠伸をしながら挨拶した。それを蘭は見逃さなかった。

蘭「ちよつと新一！！！！挨拶に欠伸は要らないの！！」

新一「しゃあねえだろ！昨日、事件だったんだから。」

蘭「どうせ、その後に小説でも読んでたんでしょ？この推理オタク
！！！！」

新一「推理オタクじゃねえ！！」

蘭「推理オタクじゃない！！！！新一が推理オタクじゃないなら、この世に推理オタクなんていないわよ！！！！」

またいつもの喧嘩が始まった。それを園子がニヤニヤしながら見ている。

園子「朝から夫婦喧嘩ですか。お熱いわね。ラブラブじゃない！

！！」

新一「夫婦じゃねえ！！」

蘭「夫婦じゃない！！」

園子の言葉に二人の顔が真っ赤になる。園子は笑いながら教室に入っていた。

プロローグ（後書き）

セリフ多いですね。

いやゝ新一と蘭も大変だ（笑）

誤字、脱字の指摘、お願いいたします（*^^*）

part 1 (前書き)

祝2回目 やったあゝ(＊、)ノ

part 1

しばらくしてホームルームが終わろうとしていた。

先生「今日は転校生がいるぞ。」

先生の言葉で、クラスが途端にうるさくなる。そんな中、扉がガラツと開いた。

美夏「里山美夏です。よろしく。」

園子「美女…。」

蘭「わぁ！！！！可愛い！！」

クラスメイトはざわざわする。大半の男子は彼女に見とれている。もちろんこの中に新一は入っていない。そりゃ、蘭一筋なんだから。

先生「里山の席は工藤の隣だ。ほら、あそこの。」

美夏「はい。よろしくね工藤君。」

新一「ああ…。」

ホームルームが終わるとすぐに美夏の回りに人が集まる。女子はきやあきやあ言っている。蘭と園子の2人もその中に加わった。

ク「どこから来たの？」

ク「彼氏いる？」

ク「何部に入るの？」

などと美夏は質問責めにあっている。美夏は困惑した様子だった。

美夏「あたし、聖徳太子じゃないから、一気に言われてもわかんないよ?」

美夏の一言で、急に質問責めが止まる。そんな中、園子が質問し始めた。

園子「美夏ちゃん…だっけ?私、鈴木園子!!!園子って呼んで!で、質問なんだけど、どこから来たの?」

美夏「美夏でいいよ。あたしは、米花女子から来たの。」

美夏が大きな声で答える。それと同時にチャイムがなった。

part 1 (後書き)

何かウチの小説ってセリフが多い… (ノゝゝ) /

part 2 (前書き)

祝3回目d(ー)！

こんな駄文を読んで下ってありがとうございます

ございます(TーT)

美夏目線です!!!

part 2

こんにちは。里山 美夏です。昨日、帝丹高校に転校してきたの！
そこで、隣の席の工藤君に一目惚れしちゃったんだよね…」あたし、
惚れっばいから…。

だって、あの名探偵工藤 新一だよ！？新聞で見るよりかつこいの。
の。

美夏「工藤君、彼女いるの？」

質問攻撃された後の授業で、あたしは聞いてみた。眠そうにこつち
を見る。そんな顔にもドキツとするあたしって、バカ？まあ、それ
はおいといて。質問の答えが淒く気になる。

新一「いねえよ。」

よかった。安心の色が心の中に広がる。あたしは調子に乗って、も
うひとつ質問してみた。

美夏「好きな人は？好きな人はいるの？」

新一「いるよ。泣き虫で意地っ張りで、すげえおせっかいな奴。ほ
ら、あっこにいる蘭だよ。知ってるだろ？」

さっきの安心の色が一気になくなる。明らかに嫉妬の色になってい
る。工藤君、赤くならないでよ…。

さっき工藤君が指を指した方を見る。あの娘、さっき園子といった娘
だ。確か、毛利 蘭って言ったっけ。腰まで届くサラサラの長い髪、
ぱつちりとしたうるうるの瞳。その上、細い手足、長いまつげ、き

れいな白肌。女の子が欲しいものばかり持つてゐる、あの娘。あの娘が工藤君の好きな人。羨ましいや。

でも、ちょっと可愛いからつてあたしはあきらめない。どうにかして、あの娘を不幸にしてあげるわ。

part 2 (後書き)

美夏ちゃん怖いよー！ー！！！！自分で書いときながらだけど。

ウチに文才を分けてください(T^T)

part3 (前書き)

Theヘンテコ小説第4話!!!

part 3

蘭は、園子と話していた。（↑主に新一の話）

園子「本当によくやるわね。お弁当だなんて、さすが奥さま。」

蘭「私は奥さまじゃないし、新一は旦那じゃない!!!」

園子「あらら…、私、旦那だなんて一言も言っていないわよ」

蘭「もう、園子!!!」

園子「アハハハ。あ、私日直だった!!!」

逃げるかの様に園子は屋上を出ていった。蘭かため息をついていると、後ろから声をかけられた。

美夏「毛利さん!!!」

蘭「えっ？」

振り返ると美夏が立っていた。

蘭「あ、里山さん。蘭でいいよ。どうしたの？」

美夏「あたしも美夏でいいよ」で、ひとつ質問なんだけど…蘭さんって、工藤君のコト、好きなの？」

美夏が聞くと、蘭はみるみる赤くなっていく。それを見て、美夏は少し怒りを感じた。

蘭「違うわよっ。新一とは只の幼なじみ!!!」

美夏「じゃあ、あたしと工藤君の恋、手伝ってよ。」

蘭「えっ。」

美夏「お願い、どうしても手伝ってほしいの。」

新一と呼んだ蘭に完全な怒りを覚えた美夏は、蘭に恋の援助を頼んだ。蘭は困惑の色を隠せなかった。

part 3 (後書き)

こんな駄文を読んでくれて、ありがとうございます(T_T)

part 4 (前書き)

蘭ちゃん目線です!!!!

part 4

美夏「お願い。どうしても手伝ってほしいの。」

美夏ちゃんから発せられた言葉。手伝ってほしい？ムリだよ。私は美夏ちゃんが好きになるずっと前から新一が好きなんだよ？美夏ちゃん、知らないでしょ？

美夏「蘭さん。本当をお願い。」

頭を下げる美夏ちゃん。ここまで頼まれたら……って思ってしまう。でも、やっぱり新一は好きだよ。私の中に2人の私が現れて、喧嘩し始めちゃった。

蘭「いいよ。」

思わず言ってしまった。心の喧嘩では、応援しなきゃと思ってる自分が勝つたみたい。それに、新一が幸せになるならね、仕方ないじゃない。

私の言葉に美夏ちゃんは瞳を輝かせた。

美夏「本当に！？嬉しい！！じゃあ、工藤君と喋ったり、一緒に帰ったりしないで！お願い。」

蘭「えっ？」

美夏「当然でしょ？だって、工藤君と他の女子が喋るの、見てて辛いもん。」

今日2度目の衝撃を受けた。ナンティッタノ？でも、約束しちゃっ

たもんね。美夏ちゃんを手伝うって。

蘭「うん。わかった。」

言ってしまった、私はバカだ。

part 4 (後書き)

投稿遅くなってすみません (T^T)
熱で2日間寝込みまして。口；

part 5

次の日から、蘭は新一のことを避けはじめた。登校は一人で、愛妻弁当も作らず、喋りかけられてもすぐにどこかへ行った。しかし、それで新一が納得する訳もなく。

新一「おい、蘭どういふコトだよ!？」

蘭「何が？」

新一「何が？ じゃねえよ。何で俺のコト避けてんだよ。俺、何かわりいことしたか？」

帰ろうと荷物を持ったとき、新一に呼び止められた。ひどく新一は怒こつている。しかし、美夏と約束した手前、喋るわけにはいかない。少しの沈黙が二人の間に流れる。

蘭「私、避けてた？ 偶然だよ。じゃあ用事があるから先帰るね。」

一言だけ告げて、蘭は帰っていく。新一は一人取り残された。一度も後ろを振り向かないまま、蘭は去っていった。

新一「何でだよ...。」

当然の如く、偶然ではないと思ってる新一。気がつけば、蘭は門を出ようとしていた。その姿を見て、新一は昔に戻りたいと素直に思った。他愛のない会話をし、笑いあった日々。それがすべて崩れていった。

新一「くそつ。」

新一の叫び声がむなしく教室に響いた。

part 5 (後書き)

新一ごめんなさい(T|T) 貴方が可哀想です。
とかいって面白がってるASUです!!!

誤字脱字の指摘、よろしく願いいたします(*^_^*)

part 6 (前書き)

美夏ちゃん目線です!!!!

part 6

一部始終、見させてもらったわよ。教室のとき。蘭さん、とってもいいこよね。工藤君と喋るなって言ったらその日から避けはじめるんだもの。本当、いい気味」

美夏「他に何かあるかしら。あの子を痛め付ける方法」あつ、そうだ。」

いいこと考えた。待っててね、蘭さん。今すぐ、楽しいゲームが始まるから……

………次の日………

美夏「工藤君、蘭さんと喧嘩してるの？」

新一「ああ、避けられてるみたいだな。」

明らかに工藤君は不機嫌。なら、計画通りに行きそうね。

美夏「じゃあ、ちゃんと話した方がいいよ。蘭さん、落ち込んでるみたいだし。」

新一「でも……」

美夏「工藤君、カッコ悪いよ、相当。ちゃんと話しなよ。」

新一「……ああ。」

工藤君は立ち上がって、蘭さんの元へ行った。そうして二人で屋上へと行った。もちろん、あたしは尾行してるわよ。計画通りかどうかは、ここから始まるから。

さあ、ゲームの始まりよ。

part 6 (後書き)

美夏ちゃん、怖いです。普通に。さてさて、ゲームとはどんなゲームなのでしょう？

part 7

蘭と新一、そして美夏は屋上にいた。（といっても美夏は尾行しているだけだが。）

新一「なあ蘭、俺のコト、避けんなよ…。」

寂しそうな声で新一が喋り始める。蘭はゆっくりと口を開きはじめた。

蘭「避けてないって言ったじゃない。」

新一「嘘つけ。おめえ、絶対嘘ついてるだろ。何年一緒にいると思ってるんだよ。」

蘭「嘘なんかついてないもん!!! 新一は分かってない!!!」

蘭は泣きながら走り出した。新一も追いかけて走り出す。そのまま2人は、道路にとびたしていた。

パッパーーーーー!!!!!!

蘭「えっ?」

つんざくようなトラックのクラクションが右の方から聞こえた。蘭は新一に押され、トラックに当たらなかった。一方新一は…

蘭「新一い！！！！！！！！！！」

蘭を庇ってはねられていた。血は出ていないが、意識がない。

美夏「蘭さん！！！！どうしたの？って工藤君！！！！とにかく救急車を。」

美夏は冷静に救急車を呼んだ。

その後、新一は救急車で運ばれて行った。

part 7 (後書き)

最後駆け足でしたね…… m (—) m

part 8

蘭は病院に来ていた。新一のお見舞いの為に。

あの後新一は、意識を取り戻した。あの事件以来、蘭は新一と会っていない。

美夏「あら、蘭さん。」

病室につくと、そこにいたのは美夏だった。美夏は、蘭の方を見ると、すぐに来て蘭を呼びだした。

美夏「ねえ、蘭さん。」

蘭「何？」

美夏「何で来たの？工藤君を傷つけて、事故にまで会わせたのに。悪いと思わなかったの？」

蘭は絶句した。確かにその通りなのだ。少しずつ涙が溢れてくる。美夏はそれを見て、ニヤリと笑った。

美夏「きつと、工藤君の傍に貴方は必要ないと思うの。だから、蘭さん。転校して？これ、工藤君からの伝言。」

蘭「……分かった。」

蘭は目に涙をためながら、転校する決意を決めた。そのまま、家に帰っていった。

そんな姿を見て、美夏はまた笑った。

美夏「ちよつと狂ったけど、最終的には成功ね。」

その笑顔は残酷な位、冷たい笑顔だった。

part 8 (後書き)

見た目は美少女、中身はごく悪、その名は里山美夏！！！
この子、だいきらいなんですよ。ある女の子をモデルにしてるんですが。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5197y/>

二人の恋

2011年11月26日20時56分発行